

## 薬局薬剤師の禁煙支援にむけた喫煙者の禁煙意識調査

辻 賢一<sup>1)</sup>、坂東 寛紀<sup>1)</sup>、丹下 明子<sup>1)</sup>、金本 祥太<sup>1)</sup>、合田 崇浩<sup>2)</sup>、石原 美菜子<sup>2)</sup>、前田 守<sup>3)</sup>、長谷川 佳孝<sup>3)</sup>、月岡 良太<sup>3)</sup>、森澤 あずさ<sup>3)</sup>、大石 美也<sup>3)</sup>

- 1) 株式会社アインファーマシーズ 古賀調剤薬局 愛野店
- 2) 株式会社アインファーマシーズ
- 3) 株式会社アインホールディングス

【目的】喫煙はがん、虚血性心疾患、呼吸器疾患などの疾患の危険因子であり、世界的に禁煙が推進されている。しかし、ニコチンが消失する際の離脱症状は、さらなる喫煙衝動を誘発してニコチン依存症となるため、禁煙を成功させることは容易ではなく、医療関係者の支援が必要となる。そこで本研究では薬局薬剤師が健康サポート機能を発揮して禁煙支援を実施する際の課題抽出に向けて、喫煙者の禁煙意識を調査した。

【方法】2018年12月～2019年2月の当薬局に来局した喫煙中の患者88名(男性72名、女性16名)に紙面にてアンケート調査した。項目は「年齢」「現病歴」「禁煙経験」「禁煙のきっかけ」「禁煙失敗時の相談相手」「薬剤師指導下での禁煙希望」とした。結果は「薬剤師指導下での禁煙希望」から「積極的希望群(20名)」と「対照群(68名)」に分け、有意水準0.05のWelch's t検定、カイ二乗検定およびFisher正確確率検定で解析した。なお、本研究はアイングループ医療研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:AHD-0009)。

【結果】「年齢」「喫煙歴」「現病数」は積極的希望群(67.3±8.9歳、40.5±9.4年、2.6±1.6種類)のほうが対照群(53.8±15.9歳、32.5±16.1年、1.0±1.1種類)よりも有意に大きかった。また、両群とも約5割に「禁煙経験」があり、積極的希望群の「禁煙のきっかけ」は「自身の健康を害した」(50.0%)が最も多く、対照群(11.4%)よりも有意に多かった。「禁煙方法」は両群とも半数以上が「自力」と回答し、「OTC」は10%程度であった。「禁煙失敗時の相談相手」は「相談していない」が最も多く(積極的希望群:70.0%、対照群:94.3%)、「薬剤師」は両群とも0%であった。

【考察】積極的希望群の特徴として「高年齢」「長期喫煙歴」「現疾患数の多さ」が挙げられ、禁煙経験を有する患者の半数の「禁煙のきっかけ」が「自身の健康を害した」であったことから、健康への影響が懸念されないと積極的に禁煙に挑戦できない現状が確認された。両群ともに「自力」で禁煙に取り組む患者が多く、失敗時に医療関係者、特に薬剤師に相談する患者はいなかった。したがって、健康被害が懸念される前

の禁煙成功には禁煙希望者にニコチン依存症と医療関係者の支援の必要性への理解を促すとともに、専門医療機関へのつなぎや市販の禁煙補助薬などを用いた薬局薬剤師の支援も必要と考える。

**【キーワード】禁煙支援、禁煙意識調査**

(第52回日本薬剤師会(2019年10月, 下関)にて発表)